

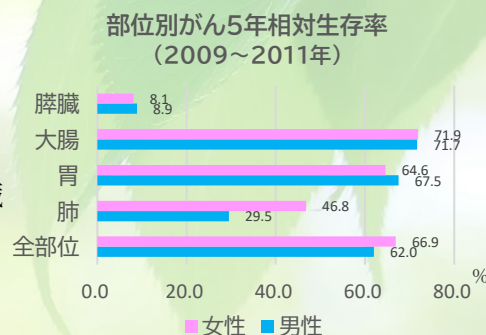
生命予後が不良である膵臓がん MRI検査で早期発見へ

膵がん早期発見の重要性

膵がん患者さんの数は近年増加しており、国立がん研究センターの最新の統計によると、2020年には44,448人の方が膵がんと診断されています。¹⁾ また、5年相対生存率（2009～2011年）は8.5%と極めて低く、生命予後が不良であるがんであることは間違いありません。¹⁾

しかし、**膵がんでも早期に発見することで5年生存率が高まり**、がんが膵臓内のみに現局している場合の5年生存率は42.1%です。¹⁾ また、がんの大きさが1cm以下の膵がんでは80%以上の患者さんが5年以上生存できることも報告されています。²⁾

以上のことは、**膵がんでも早期発見が極めて大切で、早期発見できれば治療により完治を期待できる**ことを意味しています。



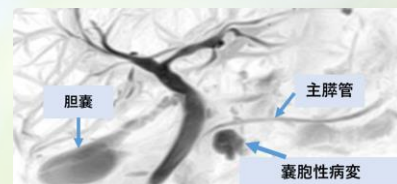
がん情報サービス がん統計より抜粋
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

膵がんの高危険群

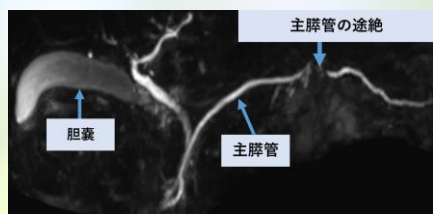
膵がんになりやすい人には一定の特徴があります。一般的に言われている膵がんの危険因子は、①家族の中に膵がんになった人がいる(特に両親、兄弟姉妹、子供などの第一近親者に2人以上) ②遺伝性膵炎や遺伝性膵癌症候群 ③糖尿病の発症、治療中の糖尿病の急な悪化 ④膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)や膵嚢胞 ⑤喫煙 ⑥大量飲酒 ⑦肥満、などです。²⁾

膵臓の検診

胃がんや大腸がん違って、住民健診の項目に膵がんは含まれていません。ですので、前述のような膵がんの危険因子がある人には、自ら積極的にドックなどを利用して膵臓の画像検査を受けることをお勧めします。膵がんの発見、特に早期での発見を目的とした検査では、“膵がん”を描出するのではなく、膵がんが発生した時に起こる“細かな膵臓の変化”や、膵がんの危険因子と言われている“膵臓の嚢胞性病変”を発見することが大切です。²⁾



膵臓に発生した嚢胞性病変（膵管内乳頭粘液性腫瘍）のMRCP像



早期膵がんによる膵途絶とそれより尾側の膵管拡張のMRCP像

膵がん検診におけるMRI検査

この問題を解決してくれるのが**MRI検査**です。特に**MRCP**は、内視鏡、カテーテル、造影剤、X線透視装置を用いずにMRI装置で胆嚢・胆管膵管を無侵襲に描出する検査法で、前述のような膵がん発生に伴う初期の変化、膵がん発生の危険因子となる病変、などを明瞭に描出することができ、複数の医師で客観的に評価することが可能な検査です。MRCP (Magnetic Resonance Cholangiopancreatography) ; MR胆管膵管画像)

膵がんが心配な方へのアドバイス

早期発見することで、膵がんは完治できる病気になりました。膵がんの検査、治療は専門性が高く、多数の患者さんを検査、治療している専門施設での治療成績が優れており、²⁾ そのような専門施設ではロボット支援下手術などの患者さんの体に優しい低侵襲手術も開発が進んでいます。たとえ膵がんが見つかったとしても、決してあきらめず、治療に取り組んでください。

MRI検査は放射線被ばくがなく、安心して繰り返し検査を受けることができ、また膵がんの早期発見に役に立ちます。膵がんが心配な方は、まず膵臓のMRI検査を受けてみることを提案します。

1) がん情報サービス. https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/10_pancreas.html
2) 日本膵臓学会 膵癌診療ガイドライン2022年度改訂版.

今回お話を伺ったのは

自治医科大学附属さいたま医療センター
一般・消化器外科 教授

野田 弘志 先生



【すい臓がん早期発見】におすすめの検診

PETスタンダード・すい臓プラス

228,000 円(税込)

PET-CT検査を軸に、胸部CTや骨盤MRI、甲状腺・腹部超音波検査などにより全身のがんのスクリーニングを行うコースをベースに、上腹部のMRI・MRCP検査を加えて発見が難しいとされる『膵臓がん』の診断精度を向上。基本セットにはない腫瘍マーカー2種も含まれます。上腹部のMRIを追加することで膵臓がん以外にも、胆管がん、肝臓がんなどの診断能も強化できます。 ※女性はマンモグラフィー、乳腺超音波検査が無料付帯

体幹 PET/CT	胸部CT	骨盤MRI	腹部超音波	甲状腺 超音波	胃がん リスク検査
腫瘍マーカー	抗P53 抗体	便潜血検査	マンモ グラフィー	乳腺超音波	
身体測定	血液検査	甲状腺 機能検査	尿検査	当日面談	後日面談

+

腹部MRI MRCP	膵腫瘍 マーカー2種
---------------	---------------

テオリア検査（すい臓がんリスク判定検査）

55,000 円(税込)

すい臓がん細胞が分泌する『エクソソーム』を検出し、早期の段階でリスク判定が行える血液検査です。単独でも、他の検診コースとあわせたオプション検査としても実施いただけます。

※テオリア検査™は保険適用外の検査です。

※テオリア検査™は、テオリアサイエンス株式会社が提供する検査です。当クリニックより検査を委託して実施いたします。

掲載の料金は2025年3月時点の内容です。予告なく変更する場合がございます。

クリニックニュース

2025年2月 最新型MRIを導入



さいたまセントラルクリニックでは2台のMRIを駆使し最適な画像検査を行っています。このたび導入した最新型MRI装置により、これまで以上に快適な検査が期待できます。

より早くー

AI搭載、smart speedにて最大65%の撮像時間を短縮。

より広くー

MRI口径の拡大、ボア径70cmで圧迫感のない検査空間。

より快適にー

明るい検査室、検査中も映像を見ながらリラックスして受診いただけます。

Philips MR5300 1.5T MRIシステム



最新鋭のモデルは、身体への負担が少ない相対的低磁場でありながら画質は高精細を維持するのが特徴。特に、心拍や呼吸などの動きにより画像の劣化が生じやすい、心臓や上腹部（肝臓、胆のう、すい臓）などの画像診断に定評があるモデルです。

ぜひ、ご体感ください。